コロナ禍を乗り越え、誰もが身近な幸せを実感できるまちづくりを進めてまいります

白河市長
鈴木和夫（すずきかずお）

あけましておめでとうございます。

市民の皆様には、希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃の感染拡大防止へのご理解とご協力に心より感謝を申し上げます。

コロナ禍となり約3年が経過しました。この間、社会経済活動がさまざまな制約を受けるとともに、ロシアのウクライナ侵攻による国際的な原材料価格の上昇に加え、日本と欧米の金利政策の違いにより円安が一気に加速し、日常生活に不可欠なエネルギーや食料品等の物価高騰が続いています。

このような状況のなか、市民生活と地域経済を守るため、2価ワクチンに加え、小児向けの追加接種や乳幼児を対象とする接種を速やかに進めるなど感染症対策に最優先で取り組むとともに、家計や企業の負担を軽減するためのきめ細かな支援策を講じてまいりました。

昨夏の甲子園で東北勢初の優勝により一躍脚光を浴びた白河の関をはじめ、小峰城、南湖公園が、多くの来訪者で賑（にぎ）わうとともに、工業の森・新白河A工区に大手製薬会社の進出が決定するなど、明るい陽射しが差し始めてきました。

本年は、長年の悲願であった国道294号白河バイパスが全線開通し、市民生活の利便性が格段に向上するとともに、広域的な経済活動をはじめ医療機関へのアクセスや観光誘致など、本市の未来をさらに発展させるものと期待しております。

コロナ禍を機に、情報通信技術を活用し、新しいライフスタイルを選択する人が増え、首都圏からの人口分散が始まり、長い目で見れば「地方が主役となる時代」への転換期にあると考えております。

本年も、優れた歴史や文化など足元の資源を磨き活かしながら、誰もが身近な幸せを実感し、自分らしく、いきいきと暮らせるまちづくりを進めてまいります。

この一年が、皆様にとりまして幸多き素晴らしい年になりますよう、心からご祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。

写真提供　鈴木秀一（すずきしゅういち）氏

市民の皆様が「白河に住んで良かった」といえるまちづくりを目指してまいります

白河市議会議長
筒井孝充（つついたかみち）

新年、明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、晴れやかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃より市政の発展と議会運営に関しまして、ご理解とご協力を賜り心から御礼を申し上げます。

我が国は、人口減少・少子高齢化の進展に加え、相次ぐ自然災害の発生、未だ終息が見えない新型コロナ感染症拡大、更にはロシアのウクライナ侵略に起因する物価高騰など、国内外ともに取り巻く環境はますます厳しさを増しており、地域の社会・経済に深刻な影響を及ぼしております。

このような中、地方自治体においては、地域の諸課題を解決しアフターコロナを見据えた持続可能な地域社会を実現するため、市民の代表である市議会の果たす役割と責任は大きくなっております。

議会は、言論の府であり、合議制の機関であることを踏まえ、議員が自由闊達（かったつ）な討議を行うことを目的に「議員間討議会」を設置するとともに、議員活動の活性化と議会運営の効率化を図るため「情報通信技術(ICT)の導入」の調査検討を進めております。

私たち議員が二元代表制の一翼としてその使命と責任を果たし、市議会が一丸となって、行政と連携を図りながら、市民の皆様の信頼と期待に応えられるよう、そして、市民一人ひとりが心の豊かさを実感し、郷土に愛着と誇りを持てる「白河市」を実現するため、誠心誠意努め、市民の皆様とともに歩んでいきたいと考えております。

結びに、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息と、市民の皆様には、令和5年が実り多き素晴らしい一年となりますよう、心からご祈念申し上げまして、年頭のあいさつといたします。